

第1回協議会の主な意見と対応

会議名	開催日時	出席者	場所
第1回協議会	平成26年10月7日(火) 14:00~16:00	9名	あかし男女共同参画センター 会議室1、2

項目	意見等	対応等	
河川下水道対策	西区の現状	西区では明石川、櫛谷川、伊川が流下しており、明石川が大丈夫であっても伊川で氾濫寸前になった場合があったが、対策はどのようになっているのか。	氾濫寸前になったのは、上流で局所的に降雨量が多かった可能性はある。 (指摘の箇所は)雨水幹線の整備を進めたいと考えている。
	明石川	明石川の掘削を実施しても、すぐに上流から土砂が供給されて河口が閉塞するのではないかと考える。	明石川は海からの漂砂の影響で河口が閉塞するが、出水によりフラッシュされ、閉塞は解消されると考えている。
	浸水予測シミュレーション	平成16年の洪水で浸水実績があるが、予測シミュレーション結果で明石川の右岸側が浸水していないのはなぜか。	左岸側の結果のみを示したものである。 →【右岸側の結果は、別途示す。】
	確率規模等	河川整備計画の1/30の整備、河川整備基本方針の1/100の整備について、表現を工夫してほしい。	1/30と1/100は、その表現について工夫する。
流域対策	田んぼダム	計画地域の水田では、米が終わった後に野菜を植えているところもあるが、対象となる水田はどのように決めたのか。 防災対策を取り組んでいく上で、真剣に考えないといけないことである。	西区のほ場整備済み水田の面積(約1,000ha)の内、仮に1/3程度として効果を試算した。 現状は、県でセキ板を作成、配布しており、営農に支障の無い範囲で協力をお願いしている。
	田んぼダム及びため池	田んぼやため池の対策を実施する場合、耕作者や管理者の了解をきちんととるべきである。	→【耕作者や管理者の協力が得られるよう、県・市連携して取り組む。】
	ポンプ施設	神戸市の2つのポンプ施設は施設指定をすることを考えているのか。	指定にあたっては、協議を重ねていく。
	各戸貯留	明石市では雨水貯留タンクの助成が廃止されているが、どのようにすすめるのか。	明石市の助成は廃止ではなく休止である。雨水利用促進法が施行され、補助金についても検討されている。その結果を踏まえ考えていく。

第2回ワーキングの主な意見と対応

会議名	開催日時	出席者	場所
第2回ワーキング	平成26年11月27日（木） 14:00～16:00	21名	加古川総合庁舎 5階 A, B, C 会議室

項目		意見等	対応等
減災対策	防災意識	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会が訓練をやろうとしても、無関心な方がおり、困っている。 ・一般の方は水位が上がってもほとんど逃げることはなく危機意識は低い。 	アンケート調査結果でも住民の意識向上が一番重要であるとの結果が出ている。これを柱に行政の支援をきめ細かく行っていく必要がある。
	避難の現状	自主避難をする方がいるが、その情報が自治会に伝わらない場合がある。	今後より密度の高い連絡するなど工夫が必要。 （明石市）
		自主避難時に備蓄品の提供はできないのか。	自主避難では、全て行っている訳ではない。避難勧告、避難指示時は可能である。 （明石市）
		治安の問題はあるが、学校、役所、自治会等それぞれが鍵を持ち、自主避難所を開設できる方法を検討してほしい。	今後、防災部局でどのような工夫ができるか考えてほしい。
	ゲリラ豪雨の検討	住民に危険性をわかってもらうためには絵で示すのが効果的である。明石川でも検討を実施してほしい。	市とも相談し、対応を考えるので、要望は預からせて頂く。
河川対策	河川の整備状況で、当面事業をしない区間についても、流下能力の有無を表現し公表する方が良い。 （神戸市）	総合治水推進計原案にて、表現方法を工夫する。	